

社会科教育

奈良県小学校教科等研究会
社会科部会
第72号



尾上社会科部会部会長

社会科の授業で「何を学ばせるのか」
「どう学ばせるのか」を確かめる意味

奈良県小学校教科等研究会社会科部会

部会長 尾上 和久

一 奈良の社会科の原点と今

平成二十九年十月の全小社奈良大会に向けて設定している研究主題は、「社会的な見方・考え方を深め、よりよい社会の形成に参画する力を育てる社会科学習」です。これは、学習指導要領やこれまでの本県社会科の取組の成果と課題、社会科診断テストの結果などを詳しく検討した中から設定しました。一方、わたしたち奈良の社会科の先輩が、戦後間もなく発行された「社会への旅」の中で、「言うまでもなく、社会科の勉強は、私ほどのようにして社会での生活をしているのか、また一層明るく住みよく、社会を進歩発展させるにはどうすればよいか、というようなことを学習するのが『社会科』なのです。」と実に端的に記されています。このことと先の研究主題から明らかなように、戦後七十年の節目を迎えた今日にあっても、奈良県では社会科についての考え方は、不

易であり一貫した考え方が脈々と継承されてきたわけですから学習指導要領解説では、「社会科の学習では、社会生活についての理解を深め、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てることを通して、国家・社会の形成者として、その発展に貢献しようとする態度や能力を育てようとしているのである。」と述べられています。これもまた奈良の社会科の原点と合致しています。

二 何を学ばせるのか

社会科の指導法について戸惑いを感じている教師が少なくない現状があります。学習指導要領には、三学年からの各学年で指導すべき内容が記されています。しかし、具体的な個別の内容には触れてはいません。このことから社会科は、内容教科だといわれる場合があります。ですから、指導すべき単元で「何を学ばせるのかを教師自身が確認・整理・把握する必要性があります。この「何を」は、「学習する内容」や「指導内容」であり、つまりは習得させるべき「知識」です。従ってこの「知識」を「内容知」ということができます。ひとつの単元で習得させるべき「知識」を明確にす

る手掛かりは、学習指導要領解説、教科書、教科書の別冊指導書、同僚や先輩教師からのアドバイスなどにあるでしょう。しかしその段階では、「知識」がおそらくは断片的で関連性がない状態です。そこで、それらから得られた指導すべき「知識」を一単位時間ごとに構造化していく作業が次に必要となつてきます。「知識の構造化」を図ることが非常に重要となるわけです。このような理由から、一単位時間ごとの「用語・語句」や「資料」、「具体的知識」、そして単元全体を通してつかませる「中心概念」などを確認し学習展開の経過を追って構造的に整理したもの、つまり「知識の構造図」を作成することに県小社研では取り組んでいます。新たな単元に入る前に教師が「知識の構造図」を作成することで、「何を学ばせるのか」「知識」を確認・整理・把握することができ、習得させるべき知識の欠落を防ぎながら指導ができることになることでしょう。しかし、このことを知識偏重型の学習と誤解し、子どもたちの主体的な学習が尊重されず、興味・関心・意欲がないがしろになり暗記・座学中

心の学習に陥いることは、絶対避けなければなりません。

三 どう学ばせるのか

受け身的で知識偏重型の学習に舞い戻らないために、「どう」学ばせるかが次に大きなポイントとなります。社会科学習の役割は、「知識」の習得のみではなく、「学び方」を学ばせることです。これを「方法知」といいますが、主体的な学びができるためには、問題解決に向けた様々な方法を子どもたち自身身に付けていく必要があります。このことから、まず基本的に社会科の学習スタイルである問題解決的学習過程を教師が強く意識して単元を組み立てることが求められます。県小社研ではこの学習過程を「みつめる」↓「しらべる」↓「ふかめる」↓「ひらげる」としています。子どもたちにこれらの各場面で多様な学習活動を経験させながら、学習問題の解決を目指して追究させて「知識」を習得させていきますが、同時に諸能力や態度も子どもたちに身に付けさせることとなります。学習過程に従って考えると、おおよそ次のようなことを学ば

第五十五回全国小学校社会科研究協議会

研究大会 奈良大会

【開催日】 平成二十九年十月二十六日(木)

【会場校】 奈良市立飛鳥小学校

同 富雄第三小学校

同 大和郡山市立筒井小学校

同 大和郡山市立筒井小学校

せたり、態度を育てたりすることが大切であると考えます。

①社会的現象の中から様々な疑問や問題を見つける。
②問題の解決に向けての見通しをもつ。

③観察や各種資料(実物、地図、統計資料、パンフレットなど)、見学、インタビュなどをとくに調べる。(多様な調査方法の獲得)

④調べて分かったことを整理し分かりやすくまとめる。(効果的な表現方法の獲得)

⑤互いの考えを交流し吟味し合う。(根拠に基づく話し合い方、説得力のある表現方法の獲得)

⑥学習を契機に身近な社会や歴史などに今後とも興味・関心をもち続ける。(態度形成)

このような学びが「知識」の習得を目指す中でタイムリーにそして的確に行われることで、思考力・判断力・表現力などの諸能力を獲得させていくことができます。先の全国学力・学習状況調査の結果から「活用する力」に課題があるという分析がありますが、この課題解決のための有効な手立ては思考力・判断力・表現力などの諸能力の育成にかかっていると考えます。まさに「どう」学ばせるかの中身と質を確認しながら学習を組み立てていく必要性が増してきています。

四 おわりに

第六十二回奈良県小学校社会科学研究会を天理市立樅本小学校において開催いたします。会

場校の皆様には、「調べたことや考えたことを表現する力」を育てる授業の創造」という研究テーマに迫る熱心なお取組をいただいていることと多くのご協力に深く感謝申し上げます。本研究大会参加者には、公開いただく授業から樅本小学校でのこれまでの研究成果を学び取ると

ともに各分科会の協議で活発にご意見をいただき、今大会が実り多きものとなることを願っております。奈良県の社会科教育がより一層発展し、子どもたちの学びがさらに豊かなものになりますよう今後とも皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

奈良県小学校教科等研究会社会科部会
平成二十六年冬・季研究大会
学年別分科会
平成二十七年二月十日 奈良県立教育研究所

第3学年部会

「店ではたらく人」
一 業態の比較から学ぶ販売に関する学習の在り方
奈良市立佐保台小学校
教諭 中川 隆詞

「本実践における提案」

社会の形成に参画する力を育てるには、①人の営みに学ぶ②ねり合う(実際に消費活動の結果から基準を置く、言語活動の適切な位置づけをする。)が重要である。本実践において「確かな教材作り」として、「みつめる」段階では、児童の主體的な活動を見取り、データベース化(視覚的に捉える)ことで、授業を進めた。「しらべる」段階では、異なる業態の二店舗を見学(基準に

基づいた見学ができる、比べられる)し、実際に買い物をしてみる。

「ふかめる」段階では、小学校区でスーパーマーケットをつくるならば、どんなお店が良いかを話し合い、消費者から販売者への視点の転換を促せるように授業を進めた。

「ひろげる」段階では、どういった消費活動をしていけば良いかということと子どもたちの主體的な活動から社会とのかかわりを見つめるように進めた。(学びに生きる評価)を四回行った。同じ内容を授業の度に問うことで、学びの深化がわかってくる。そして、数量的評価も視野に入れて実践を進めていった。成果として、まず、お店の比較によって、それぞれの特色について考えることができた。次に、消費活動を通して、子どもたちは主體的に活動することができ

た。ねり合いによって、子どもたちの意見の変容が見られ、考えを深化することができた。一方で、課題は、子どもたちへの負担が大きかったのではないかと考える。同じ問題を問うたことで、一人一人ニーズも違えば、家庭環境も違う中で、三年生には難しい問題になってしまった。今後の研究課題としては、数量的評価についてである。まず、記述という数量評価、次に知識の構造図のキーワードがいくつ出てきたかという数量評価がどれほどできたかである。そもそも、学習単元において、学習問題の設定は子どもたちに合致していたのかということも今後の課題としていきたい。

「研究協議から」

・ねり合いや、話し合いにおいては「きく」ができなくてはならない。そうでなければ、相手を認められなくなる。次に、自分の考えを持つことが大切である。友だちの意見から刺激を受けられることが大切である。
・ねり合いのためにねり合うのではない。みんなの意識を深めていくためなのである。その目的のために話し合っていく。子どもたちは経験をもとに、自分の考えを発表できていた。いろんな話を聞いていく中で子どもたちの考えは変容していった。
・ねり合いでは、子どもたちは必ずしも変容しなければならぬことはない。「やつぱり、ほかはこう思う」でもいい。
・討論型+違う考え方ができる

「指導助言」

桜井市立大福小学校 教頭 半田 孝 先生
・佐保台小学校区にはスーパーマーケットがないことに焦点化していることは良い。
・スーパーマーケットとコンビニエンスストアという違う業務形態を比較することは良かった。違いを見ることが消費者のライフスタイルや経済が見えてくる。今後、スーパーマーケットを比べても、おもしろい実践になっていくだろう。
・スーパーマーケットで買い物をする人には、理由があったはずであり、子どもたちにも、なぜ? という疑問をもたせるために、内容を選んでいくべきだろう。
・シャープと連携しデータベイス化を実践したのは良かった。データは子どもたちに返してあげると良い。
・知識の構造図において、子どもたちの身に付けさせたい概念がはつきりしていた。具体的知識で見つめることは有効である。習得したことを「ふかめる」段階でねり合いさせると良い。そのことによって、中心概念にせまり、学習が深まっていく。
・日々の生活をスーパーマーケットは支えているということをねり合いで深めていくと良い。
(西大寺北小学校 田中雅代)
(王寺南小学校 中條佳記)

第4学年部会

「奈良県の人々の暮らし」
—シカとともに—
生きる奈良の町—

葛城市立新庄小学校
教諭 宮城 修斗

【本実践における提案】

学習問題を解決して行く過程で新たに見つけた課題をねり合
いにより解決しようとするこ
がよりよい社会の形成に参画す
る力を育てることにつながる
という仮説のもと「確かな教材作
り」「ねり合いの重視」「学びに
生きる評価」の三つの視点で研
究実践した。

確かな教材作りでは、児童の
中に疑問が生まれたり、自分た
ちの住んでいる地域とは違う奈



学習のようす

良の町の学習をするために、し
らべる段階でマルチメディア教
材を活用したり、奈良の鹿愛護
会のインタビュアーや仕事風景の
ビデオを提示したりする工夫を
行った。

ねり合いの重視では、調べる
段階で学習してきたことを生か
し、様々な視点から物事を見つ
めていくことができた。そんな
中で、鹿垣を再び奈良の町に作
ることに賛成か反対かをテーマ
にねり合いを深めていった。

学びに生きる評価としては学
習内容をふりかえる際6つの観
点を設けて児童が記述しやす
い工夫を行った。

【研究協議から】

「鹿」を身近に感じるこ
がない児童に対して、自分たちの
こととして考えさせることが、
難しかったのでは。

授業のみつめる段階で、児童
がもっている鹿に対するイメー
ジと、鹿の被害などの資料を示
し、そのギャップから学習意欲
を持たせたのはよかった。

鹿とともにくらす奈良市があ
る奈良県ととらえ、奈良県のい
いところを感じさせたい。その
ためにひろげる段階で、自分た
ちにできることではなく、奈良
市があつてよかったなどと思える
ような工夫をしてもよかったの
では。

【指導助言】

奈良市立富雄南小学校
校長 本車田 達郎 先生
葛城市に住む児童に奈良市の
学習をするためにメディア教材

を使うなど工夫がされていてよ
かった。インタビュアーの様子も
撮影し、字幕をつけるなどの工
夫もされていた。

奈良の鹿には観光資源として
のいい面と悪い面がある。今回
は愛護会の仕事を中心にしたと
ころがある。観光資源としてい
ることを前面に出すなら、お土
産物屋さんの思いなどの視点も
考えられる。

児童が切実感をもって、ねり
合っているかが課題である。そ
れぞれが、テーマを持っていて
ほうが、それぞれの立場に寄り
添える。アクティブラーニング
の研究も必要だろう。

(御所小学校 吉松 賢)

第5学年部会

「自動車工業の
—さかんな地域—
日本の自動車工業は
なぜ信頼されるのか—
生駒市立生駒台小学校
教諭 松好 健

本実践は、身近な教材から自
動車工業について知り、日本の
自動車工業が信頼される理由に
ついてねり合うことで、国内の
消費者のみならず、海外からも
高い評価を得る日本の自動車工
業の姿に迫る実践である。

単元の導入では、自動車会社
のパンフレットを使用すること
で児童に興味をもたせた。また
調べる段階では、校区にある北



学習のようす

る。
・地域の自動車工場に焦点を当
てたことが児童の意欲を高め
た。

・北田金属工業所で取材した内
容について、学習指導要領から
外れないよう取捨選択を行った。
・インターネットなど教材収集
に便利なものが多くなる中で今
回のように何度も足を運び、苦
労して教材化したものは児童へ
の伝わり方が違うのではない
か。

【指導助言】

御所市立大正小学校
校長 北野 博康 先生

田金属工業所への取材を基に作
成した資料を用いて学習を展開
した。このように身近な教材の
活用で児童に意欲と知識を蓄積
した上で、日本の自動車工業が
海外からも高い評価を得ている
理由についてねり合い、仕事の
厳しさや質の高さが、消費者の
信頼につながっていることに気
付かせた。また、さらにエアバツ
グリコール問題や増え続ける
海外生産にふれ、信頼される自
動車づくりに必要なことは何
か二回目のねり合いを行った。「ひ
ろげる」段階では最も身近な消
費者である保護者と意見交換を
行い、実社会とのつながりを児
童に感じさせた。

【研究討議】

・実際に見学に行けなくても指
導者が教材化することにより、
内容を児童に伝えた実践であ

この単元では、自動車工業を
通して日本の工業の特色を学ぶ
ことが大切である。「工夫や努
力」「優れた品質」などがキー
ワードになる。本実践は、身
近な地域教材である北田金属工
業所から日本の工業の姿が見える
実践であった。地域教材開発の
ポイントには、日本の工業に一
般化できるかどうかである。ねり
合いは、社会的現象が社会的意
味へと変化する部分である。「日
本の自動車工業は信頼されてい
る」で終わらず、あえて崩し、
児童に多角的に考えさせたとこ
ろが本実践のよいところであ
つた。よい社会科の授業は考え
を収束させないものである。「ひ
ろげる」段階では保護者が参加
することで、児童の考えがより
広がった。これらのことから、
参画する力は育つたと考えられ
る。

(六条小学校 吉村 泰典)

第6学年部会

「わたしたちの願いと
政治のはたらき」
—政治について知ろう
—関わりよう—
御所市立秋津小学校
教諭 藤田 泰徳

【本実践における提案】

「みつめる」の段階では、御所市で行われているイベントを想起させ、どうしてイベントが行われているのだろうという学習問題を立てた。次に、「しらべる」の段階では、だれがどのようにしてイベントを決定し、実行・運営していったのかについてゲストティーチャーによる聞き取りや班での調べ学習を展開していった。

「ふかめる」段階のねり合いでは、市民がどのような願いをもっているかを考えさせるために関連図を作成していった。「ひろげる」段階では、身近な解決したい問題とアピール文を作成してよりよい社会の形成に参画する態度を育てていった。

実践を行って、関連図を作成することを通して、学習したことを整理することができた。

【研究協議より】
・ねり合う姿とはクラス全体でちがった意見をぶつけ合うこと、そして、最終的なねり合い後の姿としては、社会的な見方や考え方を深めることである。



学習のようす

そのためには、学習内容をしっかりと理解していないといけない。

・ねり合いを行うためには、いろいろな考えをもつ子ども同士で集団を形成しないとけないと思われるが、どうして学級全体ではなく、グループでねり合いを行ったのか。
・ネタ(イベント)に走ってしまふと、ねらいから逸脱しやすくなる。ただ、イベントを切り口にするのはおもしろい。ユニバーサルデザインの視点からもう感じる。

【指導助言】

生駒市立秋津小学校
教頭 山中 賢司先生
・成果と課題の部分をもっと突き詰めてもらいたい。研究主題で掲げている「参画する」とは、本単元においては、願いをもつことである。そのため、解決したいことを「ひろげる」の段階

で整理することが大切である。よって、本実践を通して、参画の目が培われてきている。発表を聞くとき政治の中心が見えてきた。また、「人の営みに学ぶ」という視点でも、ゲストティーチャーからの聞き取りが組み込まれており、人との出会いを大切に学ぼうとしていた。
・予想や仮説の場面もねり合いとしての価値があるのでないか。子どもたちには、根拠を明らかにして話せるようにすることが大切。そのときには、相手意識をもって考えさせることが重要である。
(あすか野小学校 佃 拓也)

●地域の学習材●
奈良県立万葉文化館
(明日香村)

万葉文化館は大和三山の耳成山・香具山や明日香の田園を望むことのできる高台にあり、飛鳥池工房跡に、切り妻・瓦葺きの屋根に棟持ち柱、壁は校倉風の石張りなど日本古来の建築様式を取り入れた落ち着いた建物です。敷地内にある万葉庭園では、万葉歌碑を四季折々の万葉の草木を楽しみながら散策することが出来ます。

日本最古の歌集・万葉集には、全国各地で詠まれた約四五〇〇首の歌が収められています。その中でも、奈良を対象に詠まれた歌が最も多く、県内には万葉集ゆかりの歴史的風土や自然景観が多く残されており、



奈良県立万葉文化館
奈良県高市郡明日香村飛鳥10
電話：0744-54-1850
教育旅行で来館は無料

り、「万葉のふるさと・奈良」とよばれています。万葉文化館は、その万葉のふるさと・奈良にふさわしい「万葉集」を中心とした古代文化に関する総合文化拠点として見て、感じて、体験して、学ぶミュージアムとして建てられました。しかし、難しい「万葉集」のお話だけでなく、小学校高学年にも万葉集とその時代の様子や歌について学ぶことができる工夫がたくさんあります。

日本最古の鑄造銭「富本銭」

建設の事前発掘調査で見つかった「富本銭」。現在も文化館から富本銭を作っていた工房跡(飛鳥池工房後)をみる事が出来ます。また、特別展示室では、発掘による出土品や日本最古の鑄造銭とされる富本銭などの復元展示とその時代背景をみる事が出来ます。昔のお金の作り方がわかりやすく解説展示され

ているだけでなく、皇朝十二銭の最初の貨幣(和同開珎)と合わせて学習できます。

万葉集

万葉集に見える地名は約一二〇〇。そのうち奈良県の地名は三〇〇を数えます。北は東北から南は九州までの地域の歌があり、北海道の歌がないことから当時の支配地域との関係も万葉集からわかります。自分たちの身近にある歌を探してみることも興味や関心につながるのではないだろうか。

歌とは何だろう

歌はその時代の多くの人が楽しんだもので、声に出し節をつけて歌うものが、文字により「うたう歌」から「よみ歌」へと変化していきました。当時の歌垣のことや市の様子などを映像やジオラマなどで学習することができます。また当時の文房具では消しゴムの役割で小刀を利用していたことや、蹴鞠・双六・独楽などの万葉人のあそびも展示されています。万葉がなや古代発音などタッチパネルを操作しながら楽しく学習する事もできるようになっていきます。

小学生用クイズ形式のパンフレットもあり、楽しみながら館内を見学できます。「富本銭」を作ってみる体験などもできます。

今までに文化館の方が学校をおとずれゲストティーチャーとして「歌」や昔のかな文字をおとした授業もされています。一度足を運び「歌」を身近に感じてみてはいかかでしょうか。